

【感想】 2016年1月から一年間、スウェーデンのストックホルム大学へ交換留学を行った。現地では専門である水文・水資源に関わる授業三科目に加え、スウェーデンの文化についての講義一科目、スウェーデン語一科目の計五科目を履修した。

専門科目においては、世界の河川・海についての環境問題などの国際問題について政治・科学など多角的な立場から考察を行い、フィールドワーク・ディスカッションを通じて理解を深めることが出来た。留学前まで主に工学的視点で学んでいた内容を、別の視点から考える機会になった。また、京都大学では水循環のプロセスの一部を詳細に数学的に学ぶことが多かったのに対し、今回履修した授業では大きな枠組みやコンセプトを設け、実際の地域への適用・考察を行うケーススタディの割合が大きく、理論と実践の結びつきが大切にされている印象を受けた。スウェーデン文化についての講義では、スウェーデンの生活やジェンダー論について歴史的な観点から考察を行った。留学全体を通してグループワークが多かったため、他国の学生との議論を通じて新しい知識・考え方を学ぶことが出来た。価値観・背景知識の違いによって苦労する場面もあったが、こうした状況を経験していくうち相手の立場に立って物事を考え、柔軟に対応していく力が養われたと感じている。また目標であった英語力の向上に関しても、リーディング・ライティング・スピーキング・リスニングとも大幅な向上を実感することができた。

生活面に関しては、「スウェーデンモデル」と呼ばれる国家システムの中で暮らすことで、社会福祉の充実を体験することができた。日常で見られるバリアフリー、男女平等の教育・就労など日本との違いを肌で感じることで、日本文化を客観視して考える機会となった。生活者としても、労働者の立場としても先進国のモデルの一つとして参考になるものがあつたと感じている。また寮生活や日常生活において交友関係を広げ、様々な国の人とお互いの国について話すことで、他国の文化だけでなく、日本について振り返ることにも繋がった。異文化交流を通じて、今回の留学の目標の一つである国際感覚を磨くこと、視野を大きく広げることも概ね達成でき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。

今回の留学を通じて、勉学面・生活面とも新しい様々な視点から物事を眺めることができ、これまでの考え方・価値観が変化するだけでなく、世の中の出来事に対する関心が強くなったと実感している。特に就労に関して海外を視野に入れることが出来る

ようになったのは大きな収穫であり、視野を広くもって将来の進路選択を行っていきたいと考えている。残りの学生生活においても、これからの社会人生活においても、今回の留学を通じて得た経験を活かしながら有意義なものにしていきたい。

・最後に

この度は学生・若手会員研修助成に採用して頂き、誠にありがとうございました。大学入学時から志望していた海外留学ですが、実際に行ってみることで様々な貴重な経験をすることができ、私にとって忘れられない一年間となりました。こうして無事一年間の留学を終えることが出来たのも、貴会のご支援のお陰であり、深く感謝しております。この留学で得たものを胸に刻み、また周囲への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進していく所存です。

1年間支援して下さった京都大学土木会の皆様、そして支給業務に携わって下さった全ての皆様に、重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。